

次の文章を読み、後の問いに答えなさい（設問の都合上、一部省略した箇所がある）。

科学技術には良い面もあれば悪い面もあります。最初は良い面に注目が集まりますが、ある域を超えると今度はネガティブな面が強調されていきます。ダイナマイトを考えてもそうでしょう。最初は人間の力が及ばない物を壊すために非常に役立つのに、それがやがて社会を破壊する戦争の道具に使われるようになりました。^A言葉も同じです。

言葉は、人間が手にした技術の中で最初にして最大のものといってよいと思います。人間の認知能力は、言葉の発明によって一度つくり変えられました。これが、「認知革命」と呼ばれるものです。かつて言葉は人々の間のトラブルを調整するための交渉にも使われていたはずだし、集団間の暴力を鎮めるためにも使われていたでしょう。だから人間は集団を大きくすることができました。国家という巨大な組織をつくることができたのも、言葉によって^{※1}バーチャルな世界をつくり、その物語を共有してみんながまとまれるようになったからです。ダイナマイトと同様、最初は言葉もよい作用をもたらしました。しかし、やがてその言葉が、暴力をつくり出すために使われるようになると、だんだん人間にとってネガティブな作用をし始めます。

言葉を発達させるうちに、文字も生まれました。最初は、石や木に書いていた文字を、紙に書くようになり、やがてそれを印刷するようになる。さらに技術が進み、^{※2}デレックスができ、ファクスが生まれ、そして今、ぼくたちはインターネットを通じて電子文字でつながるようになりました。

そもそも^B文字を介した理解には、常に疑いがつきまといま^す。会って話していれば、発せられた言葉だけの意味ではなく、相手の顔の表情や仕草、声色から裏の意味や背景を同時に感じることができま^す。相手の言葉を聞きながら、「おそらく嘘を言っているな」とか「本気みたいだな」と思った^りするのは、人間は言葉を話しているとき、無意識のうちに感情を出すものであり、同時に相手の感情を読み取る能力をもっているからです。話し手は、相手の解釈が間違っていると感じたら訂正することができま^す。本来、言葉の役割が^Cハツキされる場所は、こうしたやり取りが可能な場面でした。

しかし、文字は読み手本位のコミュニケーションツールであって、対話ではありません。書いた人はその場にいないので、読み手の勝手な解釈が許されます。読み手本位であるために、ときに誤解を生んで書き手が思ってもいなかった結論になったりします。再現する過程で誤解が生じるのは当たり前で、それを避けることはできないのです。

ラインなどの^{※3}SNSがあたかも対話しているかのような使われ方をしていますが、それは、あ

くまでシンボルを使った文字世界の延長です。ラインを利用している人の中には、すぐに返事が来るから対話と同一ような信頼関係をつくれていると反論する人もいるかもしれませんが、その論理には二重の意味で誤解があります。

一つは、言葉は抽象化されたものだということ。誰かと話をしていても、それは出来事すべてを表しているわけではなく、出来事をいったん言葉という抽象的なシンボルに集約してそれを再現しているだけのものです。実際には、言葉だけで相手の感情はわかりません。

もう一つは、文字化したり、肉声ではないものに⁽⁴⁾「ヘンカン」してしまったりした場合、そこにさらに⁽⁵⁾時間的な要素が加わるということです。言葉を話すということは本来、瞬間の作業でもありません。対話を書き言葉にすると、Aさん「…」、Bさん「…」というように、時系列に並べられることになりますが、実際は、相手が話しているとき、相手の言葉を聴きながら、自分が次に話すことを考えている。それは書き言葉では表現できません。文字は、相手の言葉を受けて考えた結果出てくるものではあるけれど、その瞬間に自分の胸の中に生じた感情とは違うものです。書き文字の行間を読み取ることはできても、実際に言葉を肉声をもって交わし合っている状況とは違うのです。そこにも齟齬^{そご}が生じます。

ぼくたちは、誰かに会いに行くときには、服装や身だしなみを考えますね。相手によっては敬語も使う。そういうときの緊張感は、身体からほとぼり出るものです。ところが、スマホで言葉を文字でやり取りするだけなら、礼儀も敬語もそれほど気にしなくてもいい。だから相手によって変えることをしなくなります。相手が不特定多数であれば、ますます身構えがなくなっていくきます。

さらに、顔も知らない相手から得た情報に対しては、勝手に想像ができる分、実際に会ったときに、文字の情報に裏切られるかもしれないし、それがコミュニケーションの足かせになるかもしれません。だから行き違いも起こるし、それがときに犯罪に結びつくこともある。言葉はもともと緩衝材^{かんしょうざい}の役割を果たしていましたが、今は文字に引きずられて、行動を誘発している。会って「殺してやる」と言われたなら、「バカやろー」と言い返せるし、取っ組み合って解消できることもある。殺すなどという⁽⁶⁾「コウイ」はそうそう実現しません。でも、文字は、読み方次第でいくらでも想像が広がります。それが知らない相手であればなおさらでしょう。「殺される!」と恐怖で身がすくんでしまうかもしれません。

言葉を生み出し、文字を発明し、今、インターネットの世界を介して言葉をやり取りしているぼくたちは、こうした⁽⁷⁾言葉の負の面にもあらためて目を向ける必要があるのではないのでしょうか。

スマホにかじりついているなと思う人は、一度「※⁴スマホ・ラマダン」をやってみるといいと思います。ぼく自身は、インターネットやEメールこそ利用していますが、スマホやSNSは利用していないので、日頃からスマホ・ラマダン状態です。さらに、※⁵フィールドに行ったらまったくメー

ルも見ることができなくなるので、完全なデジタル・ラマダン状態になります。

ここまでしなくても、期間を決めてデジタルを断ってみると、スマホの利点も欠点もわかるようになるのではないだろうか。そもそもラマダンとは人間に不可欠な飲食を断って、空腹を体験し、飢えた人への共感を育むこと。食えるという本源的な欲を断って、苦しい体験を分かち合うことで連帯感を高めることです。スマホはいたいどんな人間の欲に基づいているのか。スマホの有用性を知るためにも、一度それを断ってみることも必要だと思います。

(山極寿一『スマホを捨てたい子どもたち』より)

(注) ※1 バーチャル⇨仮想的。

※2 テレックス⇨遠隔で印字が可能な通信網と通信端末。現在はサービスを終了している。

※3 SNS⇨ソーシャル・ネットワーキング・サービス。

※4 スマホ・ラマダン⇨スマホを使わない期間を設けること。ラマダンはイスラム教徒が断食を行う月。

※5 フィールド⇨現地。筆者は霊長類学者で、研究のためにたびたびアフリカなどに赴いている。

問1 傍線部(ア)～(ウ)のカタカナと同じ漢字を使うものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は 41 ～ 43。

(ア) ハッキ

- ① 彼は好キ心が強い。
- ② 合唱団の指キをする。
- ③ キ嫌の悪い人は苦手だ。
- ④ キ則を守ることが大事だ。

41

(イ) ヘンカン

- ① カン境問題を考える。
- ② 遭難者が生カンした。
- ③ 趣味は映画カン賞だ。
- ④ 窓を開けてカン気する。

42

(ウ) コウイ

- ① 古代のイ政者。
- ② 王のイ容を示す。
- ③ 出題範イを見直す。
- ④ 目標達成は容イだ。

43

問2 傍線部A「言葉も同じです」とあるが、「ダイナマイト」と「言葉」はどのような点が同じであると述べられているか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。解答番号は 44。

- ① 一人の天才的な発明家によって生み出され、現在では人間や社会にとってなくてはならないものとして受け入れられている技術である点。
- ② それらが発明されたことによって、人間や社会のあり方を根底からつくり変えられたといえるほど革新的な技術であった点。
- ③ 最初は人間や社会に役立つことを願って発明されたが、次第に戦争や暴力の扇動といった破壊行為にのみ用いられるようになってしまった技術である点。
- ④ 発明された当初は人間や社会にとって有益なものと受け取られたが、時代を経るにつれて負の側面も指摘されるようになった技術である点。

問3

傍線部B「文字を介した理解には、常に疑いがつきまといまゝ」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。解答番号は 45。

- ① 言葉では嘘がつけないが、文字だと平気で嘘をつくことができるから。
- ② 言葉は人間にとってよい作用をもたらすが、文字はネガティブな作用をもたらすから。
- ③ 言葉からは感情を読み取ることができるが、文字だと誤解が生じるのを避けられないから。
- ④ 言葉は語り手本位だが、文字は読み手本位のコミュニケーションツールだから。

問4

傍線部C「時間的な要素が加わる」の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、記号で答えなさい。解答番号は 46。

- ① 相手の意図を理解するのに時間があるということ。
- ② やりとりに際して会話の間が生じるということ。
- ③ 互いの気持ちを考える余裕があるということ。
- ④ 時系列で並べるのが可能になるということ。

問5

傍線部D「言葉の負の面」の具体例として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。解答番号は 47。

- ① ネットで相手から暴言を吐かれ、実際に襲われるのではないかと恐怖を味わった。
- ② ネットで知り合った人に対して、うっかり友人の個人情報を漏らしてしまった。
- ③ ネットで誇張した自慢話をしていたら、あつというまに拡散され広まってしまった。
- ④ ネットで知った誤った情報をうのみにして、事実であるかのように伝えてしまった。

問6

本文の内容に合致するものとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。解

答番号は

48

。

- ① かつて言葉は人々の間のトラブルの調整や集団間の暴力を鎮めるために使われており、電子文字の時代に入ってもそれは変わらない。
- ② 文字は書いた人はその場にいないために誤解が生じるので、対話型のSNSならそのような問題が生じず、対話と同様の信頼関係を築くことができる。
- ③ 文字だけのやり取りでは相手に気も遣わず、また文字に引きずられて危険な行動が誘発される危険もある。
- ④ スマホの危険性や依存性を実感し、スマホを完全に手放すためにも、スマホ・ラマダンが有効である。